

毎日使うから
スイスイ
打てる!

タイピング

カメラ

撮影も
簡単です

先生は電子黒板
を使用。大きく映
して授業に集中
させます!

授業の準備が
簡単になり、その分、
子どもたちと
長く向き合えます

デジタル教科書は、
漢字の書き順が
とても分かり
やすいです。

児童は全員タブ
レットPCを使用。

これが 情報通信技術 ICT教育です!

紅南小学校と浜益小学校で、ICT
を積極的に活用した授業を行って
います。
全国でもまだ数少ない、グロー
バル化社会に向けた人材育成が始
まっています。

将来は姉妹都市の
カナダ・キャンベル
リバー市のお友達
と交流も...

紅南小学校と浜益小
学校は高速回線を利用
して交流するパート
ナー学校です。



浜益小学校

紅南小学校



ICTのメリットは 地域間格差を埋めること

総務省では、学校の授業にICTを取り入れた「フューチャースクール推進事業」を展開しています。モデル校は全国に10校。そのうちの 하나가紅南小学校です。

授業では、先生が電子黒板を使い、大きさも自由自在に地図や写真を子どもたちに見せます。さらに、子どもたちのタブレットPCにそれらのデータを送信し、瞬時に情報を共有するなど、たくみに活用しています。「子どもたちに集中させたいとき、特に注目してほしいときに電子黒板は大変有効です」とは現場の先生たちの声。加えて、先生たちにとってうれしいことは、授業で使う教材の準備がより手早く、簡単にできるようになったこと。これにより、子どもたちと向き合う時間も長くなったと言います。

* * *

ところで、市では独自の取り組みとして、**浜益小学校**においてもこのICT教育を4月から実施しています。まちの中心部から離れ、過疎化が急速に進む浜益地区。しかし、情報インフラが発達した今、ICT教育を行えば都市部と格差なく、グローバル化社会に対応した人材を育てることができるのではないか、と判断したためです。

同校では、算数や国語、外国語活動など通常の授業で活用するほか、総合学習の一環として、ホームページ作りにも力を入れています。子どもたちは、黄金山の自然や沖揚げ音頭などについて、地域の人々を訪ね、記事を作成。自分たちで撮影した写真を添えて、ホームページにアップします。皆が同時に書き込むことができるソフトを使い、作業の間も児童同士がお互いの情報を共有できる仕組みになっています。

このようにICTを活用しながら、郷土愛の涵養かんようにもつながれば——大人たちの期待も高まります。

